

事例③ 「選択能力」を高める実践 [小学校第3学年：音楽]



■ 山田小学校第3学年では、「選択能力」を高めるために、音楽の題材「曲の気分をかんじとろう」の授業で、次のような学習活動や評価活動の工夫を行いました。

2つの主眼

- 歌詞に出てくるキーワードから想像を広げ、楽曲のイメージにあった歌い方を考える。
- [選択能力] 歌詞や旋律の自他のイメージをもとに、曲想に合う歌い方を歌って確かめ、選択する。

学習活動の工夫

- 各自が考えた工夫をグループで出し合い、実際に歌って確かめながら、よりよい歌い方を選ぶ活動を設定する。
- 教師のモデル演奏をもとに全体で歌い方を選ぶ活動を設定し、グループでの活動の参考となるようにする。

評価活動の工夫

- [学習の見通し]では、児童が考えた見通しをまとめることで、グループ活動でのチェックポイントとなるように提示する。
- [振り返り活動]では、終末段階での振り返りに加え、グループ活動の途中にも「学習の見通し」を評価する場面を意図的に設定する。

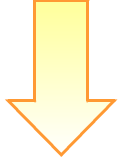
1 題材名	曲の気分をかんじとろう		
2 本時の展開	本時(3/10時間)		
	学習活動・内容	教師の手立て	学びをつくり出す能力 【選択能力】
1	<p>学習のめあてをつかみ、解決への見通しをもつ。</p> <p>(1)ふじ山の写真を見ながら聴き、「ふじ山」の2番の情景を想像する。</p> <p>(2)前時の自分たちの歌唱を聴き、めあてをつかむ。</p> <p>・情景と合っていない</p> <p>[めあて]ふじ山の2番の様子が変わるように、歌い方を工夫しよう。</p> <p>[学習の見通し]①モデルとなる活動を参考にする。</p> <p>②イメージにあった歌い方を出し合い、歌ってみる。</p> <p>③イメージをよく表している歌い方を選び、もう一度歌い確認する。</p> <p>(3)学習の見通しをもつ。</p> <p>・「青空高く」→きれい、澄んでいる、高い</p> <p>・「雪のきもの」→白い、美しい、やさしい</p> <p>・「かすみのすそ」→広い、緑、静かさ</p>	<p>○ふじ山の拡大写真(2畳分)を前面に掲示し、児童が情景のイメージをもちやすいようにする。</p> <p>○児童が思い描いたイメージを具体化しやすいように、気持ちカードを準備し、拡大写真に貼るようになる。</p> <p>○気持ちカードを貼った拡大写真を見ながら前時の合唱の録音を聴かせ、自分たちの歌唱の問題点に気付かせていく。</p> <p>○「学習の見通し」は、めあての作成に続けて、児童の考えを教師がまとめ、チェックポイントとして提示する。</p>	<p>◎曲の情景のイメージに合う歌い方を選ぶ方法を、「学習の見通し」として考える。</p>
2	<p>場面の情景に合った表現を選び、歌い方を創り上げる。</p> <p>(1)表現を工夫するポイントを確認する。</p> <p>・音色 ・強弱 ・テンポの変化</p> <p>(2)「青空高く」の表現を出し合い、雰囲気よく表している歌い方を選ぶ。</p> <p>・「青空高く」は、青い空と高い山を表現するように、澄んだ声色で段々と大きく歌う</p> <p>(3)グループに分かれ、「雪のきもの」「かすみのすそ」の部分のイメージをよく表している歌い方を選ぶ。</p> <p>・「雪のきもの」は、雪の白さと美しさを表現するように、トレーノで優しく歌う</p> <p>・「かすみのすそ」は、ひろさや静かさを表現するように、ゆったり歌う</p>	<p>○これまでの単元の学習を振り返り、自分たちにどのような工夫ができるのかを出させることで、工夫するポイントを確認する。</p> <p>◎「青空高く」では、次のグループ活動のモデルとするために、児童が出した工夫点を教師が演奏し、それを全体で評価したり改善したりする活動を設定することで、学習の見通しを意識させる。</p> <p>◎グループでの活動では、選択能力を高めるために、自分たちが納得できるまで、学習の見通し②③を繰り返すように助言する。</p> <p>○グループで輪番のリーダーを決め、リーダーは聴き手に回り、歌い方の工夫や「学習の見通し」についての評価や修正を行うようにする。</p>	<p>◎モデル活動を通して、よりよい歌い方を選択するための学習活動を見通す。</p> <p>◎実際に歌ったり、聴いたりして確かめながら、曲の情景のイメージに合う歌い方の工夫の選択を進める。</p>
3	<p>創り上げた表現を味わい、本時の振り返りをする。</p> <p>(1)代表グループが歌い方の工夫の説明と歌唱を行い、本時のまとめをする。</p> <p>(2)本時の振り返り、「めあて」と「学習の見通し」の自己評価を行う。</p>	<p>◎「学習の見通し」の振り返りでは、見通しの通りに進めることができたかに加え、選んだ歌い方の工夫のよさを簡単に説明させる。</p>	<p>◎「学習の見通し」を振り返り、よりよい歌い方工夫の選び方(「学び方」)を価値付ける。</p>

「選択能力」を高める学習活動・評価活動の工夫

- 1 「ズレ」を感じ、課題意識を高める。**
- (1) 拡大写真を用いての情景のイメージの創出
  - (2) 前時の歌唱を聴くことでの「ズレ」の確認



前の時間の歌い方は、全然イメージと違う！  
歌い方はどうすればよいのかな？



- 「学習の見通し」**
- ① モデルとなる活動を参考にする
  - ② イメージにあった歌い方を出し合い、歌ってみる
  - ③ イメージをよく表している歌い方を選び、もう一度歌って確かめる

- 2 「選択能力」を高めるためのモデルとなる活動に全体で取り組む。**
- (1) 児童が出した歌い方の工夫の教師による演奏
  - (2) モデル演奏の評価と改善についての意見交換
  - (3) 改善を踏まえた演奏の確認



先生の歌い方もいいけど、もっとすき通った声の方が曲の雰囲気ピッタリだと思う！



続きは、グループのみんなと考えて、曲の雰囲気にピッタリな歌い方を工夫しよう！

- 3 グループで工夫を出し合い、実際に歌ってよりよい歌い方を選ぶ。**
- (1) 歌い方の工夫の出し合いと歌唱の試行
  - (2) リーダーによる評価・修正
  - (3) 納得するまでの「学習の見通し」②③の繰り返し



学習の見通しに従って、うまく進めていこう！



〇〇さんの工夫の方が、私の工夫よりも雪の白さを表すことができますと思います。



学習の見通し②③で、みんなが何度も歌って工夫を選べたことがよかったです。

- 4 「めあて」と「学習の見通し」を振り返り、価値付ける。**
- (1) 「めあて」(…考える)の自己評価
  - (2) 「学習の見通し」(選んで確かめる)の自己評価
  - (3) 2名の児童の発表と教師の価値付け



実際に確かめて、みんなが納得して選べたことは、他の学習でも活かそうですね！

**この実践のよさ**

- ◆ 本実践のよさは、子どもの選択能力を高めるために、情景のイメージに合う歌い方の工夫を出し合い、実際に歌って確かめながら、よりよい歌い方の工夫を選ぶという活動を子どもが進めるために、教師のモデル演奏を取り入れたところにあります。この活動モデルを設定したことで、グループ活動において、子どもの「学習の見通し」を意識して活動に取り組む姿が認められました。
- ◆ このような学習活動の工夫は、コミュニケーション能力や自他の理解能力を高めることにも効果があります。
- ◆ 「学習の見通し」の振り返りでは、殆どの子どもが見通しの通りに進めることができたことと答え、「特に②③の実際に歌って確かめて選んだことが役に立った」と発表した子どもに対して、教師は「実際に確かめて、みんなが納得してから選ぶことは、この授業とか音楽の授業以外でも活かそうだね」と、子どもの選択能力の高まりを価値付けました。